令和元年９月
養老町教育委員会

令和元年度　全国学力・学習状況調査の結果について

４月１８日に全国の小中学校で、一斉に実施されました学力・学習状況調査の結果の分析と、今後の小中学校の取組についてお知らせします。

昨年度までは、教科に関する調査は、国語と算数・数学において、『Ａ主として知識に関する問題』と『Ｂ主として活用に関する問題』が行われていましたが、本年度より、それらを一体に問うこととなりました。また、英語の調査も始まり、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の４領域の問題が出題されましたが、英語調査の結果は、「「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計したものとし、「話すこと」調査の結果は、全国平均正答率を別に集計して、「参考値」として公表されました（都道府県別等の公表はありません）。

１　学力に関して

＜小学校＞

国語では、「書くこと」について、県や全国よりも高い平均正答率でした。特に、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに、成果がみられました。また、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題が見られました。

算数では、「図形」について、県や全国と同程度の平均正答率でした。特に、図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができることに、成果がみられました。また、「数と計算」の加法と乗法を混合した整数と小数の計算や、「数量関係」の複数の棒グラフから読み取り、選んだ理由を記述することに課題が見られました。

＜中学校＞

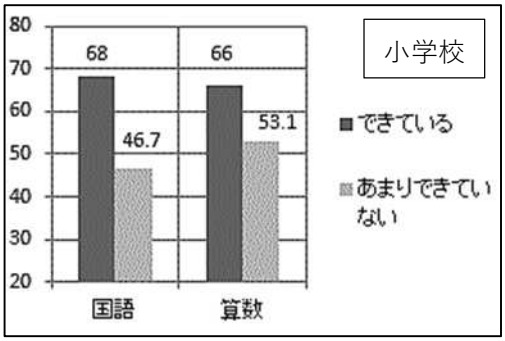
国語では、「読むこと」について、県や全国よりも高い平均正答率でした。特に、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに、成果がみられました。また、伝えたい事柄について根拠を明確にして書くといった記述式の問題に課題が見られました。

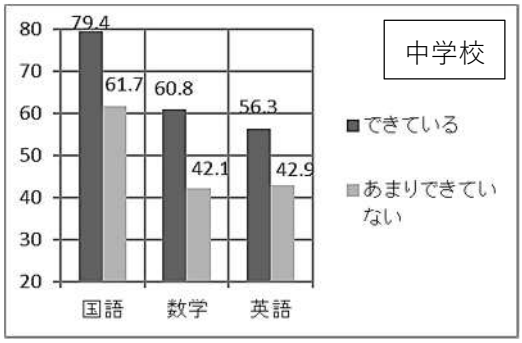
数学では、「図形」について、県や全国と同程度の平均正答率でした。特に、三角形の合同条件や図形の性質の意味を理解することに、成果がみられました。また、問題解決の方法を数学的に説明したり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりするといった記述式の問題に課題が見られました。

英語では、どの領域も県や全国と同程度かやや低い平均正答率でした。特に、情報を正確に聞き取ることや、簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取ることに、成果がみられました。また、聞いて把握した内容について適切に応じたり、話の内容や書き手の意見などを捉えたりするといった記述式の問題に課題が見られました。

２　家庭での学習習慣・学校生活の振り返り状況について

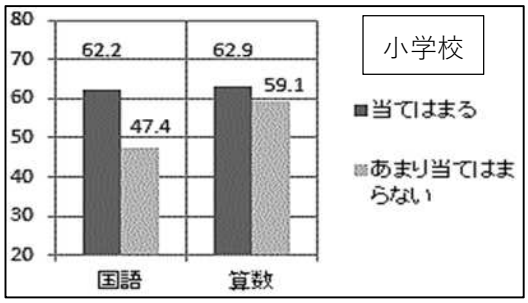
・平日、学校の授業時間以外での学習時間は、小学生の約７５％が１時間以上、中学生の約４８％が２時間以上となっています。どちらも、県や国の平均と比べ同程度か、やや高くなっています。
・小学生の約８０％、中学生の約６０％が、家で、自分で計画を立てて勉強をしています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。
・小学生の約９０％、中学生の約８７％が、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができています。また、小学生の約８２％、中学生の約９３％が、学級生活をよりよくするために互いの意見のよさを生かして解決方法を決めています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。養老町では、少人数による話し合いを授業に位置づけています。お互いの意見を聞き合い、自分の考えを伝え合える児童生徒は、正答率が高くなっています。

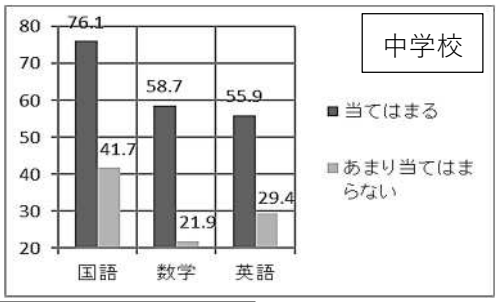




話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりする

・小学生の約９４％、中学生の約８７％が、ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがあります。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。粘り強く、最後まであきらめずにやり抜く児童生徒は、正答率が高くなっています。





ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかった

３　意識・自己肯定感等の状況について

・小学生の約８６％、中学生の約７１％が、将来の夢や目標をもっています。どちらも、県や国の平均と比べ同程度か、やや高くなっています。

・小学生の約８４％、中学生の約８２％が、自分にはよいところがあると思っています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。

・小学生の約８６％、中学生の約８８％が、あなたのよいところを認めてくれていると思っています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。

・養老町内の全小中学校では、学校・保護者・地域の方からの「よいこと見つけ」を継続して行っています。自分の周りの人から、「自分のよさ」を認められ、自分によいところがあると感じている児童生徒は、正答率が高くなっています。

・小学生の約９８％、中学生の約９９％が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。

・小学生の約９７％、中学生の約９８％が、人の役に立つ人間になりたいと思っています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。

４　基本的生活習慣や規範意識の状況について

・昨年度と同様に、町内のほとんどの児童生徒が、毎日の起床時刻がほぼ一定で、毎日朝食を摂っています。就寝時刻にばらつきがある傾向がみられました。しっかり食べ、睡眠をとる児童生徒の正答率は高くなっています。

・小学生の約８８％、中学生の約８２％が、地域の行事に参加しており、県や全国の平均を大きく上回っています。

・小学生の約６４％、中学生の約５３％が、地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがあり、県や全国の平均を大きく上回っています。ふるさと学習や地域活動の影響を大きく受けています。

・小学生の約９３％、中学生の約９９％が、学校のきまりや規則を守っているという意識をもっています。どちらも、県や国の平均と比べ同程度か、やや高くなっています。

５　町全体として大切にしていきたい取組

・各小中学校で実践している「〇〇学校の授業はこれだ！」を推進し、少人数交流を位置づけ、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組み、その授業の中で児童生徒自身が伸びを実感できる授業を目指し、さらに改善していきます。

・宿題や自学自習の在り方を工夫し、授業が核となる予習復習が行える家庭学習をさらに充実させ、発達段階に応じ、自ら計画的に学習する習慣作りに努めます。

・「よさ見つけ」を友達、教職員だけでなく、保護者、地域の皆様からの協力を得て、さらに児童生徒の自己肯定感を高め、自分や周囲の方を大切にし、人の役に立つ行動が取れる児童生徒を育んでいきます。

・１日あたりの読書時間は、小中学校とも横ばいか、やや減少傾向です。また、新聞を毎日読む児童生徒は約１０パーセントで、半数以上が読んでいません。どちらも、学力調査では、読書：１日３０分～１時間、新聞：週に１～３回読んでいる児童生徒は、国語だけでなく数学や英語においても平均正答率が高くなっています。日常的に活字に触れる読書指導を進めていきます。

・休日になると、ゲームやインターネット、テレビなどの使用が、長時間になる傾向が見られます。ゲーム・スマートフォン依存症にならないよう、「情報モラルスマイル宣言」をもとに、情報モラルの指導を継続して進め、保護者と協力した家庭でのルール作りなどを続けていきます。

・町内全小中学校でコミュニティ・スクールが実施され、地域の方から学んだり、一緒に活動したりする機会が増えました。地域の方からは、将来の夢や希望の実現に関わって講話などもいただいています。将来の夢や目標を持っている児童生徒は、どの教科においても平均正答率が高くなっています。これからも、地域の中の学校として、地域の方と共に取り組んでいきます。